

25.5.31

佐倉市

教育センターだより Vol.30

平成25年5月31日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486)2400 http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0_6.html

為せば成る、為さねば成らぬ何事も

佐倉市教育センター所長 林 輝 彦

平成25年度がスタートして早2か月が過ぎようとしています。新学習指導要領が全面実施され、小学校は3年目、中学校では2年目となりました。その趣旨に基づいた取組が着実に各学校で行われているところですが、学力差の拡大等、新たな課題も出てきているように思われます。

風薫る5月に他市町に先駆けて市内小学校で今年度初めての北総教育事務所指導室訪問が行われました。多くの来校者に目を奪われることなく、先生の話をしっかりと聞き、課題に集中して取り組んでいる1年生の姿が印象的でした。新入学から1か月余り、すでに学習習慣が確実に身についていることに少々驚かされました。指導してきたことが成果として実を結んでいることを実感しました。

さて、教育センターでは、「より身近でより頼りになる教育センターに」の考え方のもと、昨年度の成果や課題を踏まえた事業計画により業務を推進しています。その中で平成25年度は、2つの新規事業に取り組みます。

第一は、言葉の発達で支援の必要な子どもに、合理的配慮に基づく学びを支える体制づくりを充実させます。具体的には、言葉の発達に課題があると思われる子どもの正確な把握と課題のある子どもへの早期対応を図る体制をつくり、ICT等を活用して子どもが課題を克服できるように努めています。

第二に教育センターが市内小中学校と連携関係を結び、一年間を通して教育センターの機能を生かした支援を行い、当該校の課題解決に努めています。そして、その取組内容や成果をセンター等報告会を通して市内各学校に広める計画です。（連携を結んだ学校をパートナーシップ校と呼びます）具体的には、学力の向上、特別支援教育の推進、教育相談の充実（適応指導教室との連携を含む）等に課題があると考えている学校（パートナーシップ校）と一緒に課題の解決を図っていきます。

表題の「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」は、江戸時代後期、米沢藩主の上杉鷹山が家臣に教訓として詠み与えたものとして有名な話です。二つの新規事業はいずれもハードルの高いものと考えていますが、どのようなことも強い意志を持ってやれば必ず成就するとの思いで表題とさせていただきました。新規事業に止まらず、引き続きタイムリーリードバイスを初めとして教育センターは、佐倉の子どもたちのために全力で各学校を支援してまいります。



センターが取り組む5つの事業

- I 学力向上推進事業
- II 特別支援教育推進事業
- III 教育相談事業
- IV 道徳教育推進事業
- V 教育センター普及振興事業

活用する力を高めるための指導のポイント 平成24年度「佐倉市学習状況調査」の結果から

佐倉市学習状況調査【B問題】では、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、与えられた情報を適切に選択し課題解決していく力などにかかわる内容を中心として出題しました。国語科では目的や意図に応じて、文章・資料の内容や構成の効果をとらえ自分の考えをまとめることができるかどうかを、算数・数学科では様々な場面を想定し、数・量・図形などに着目して観察し、課題解決を図っているかを調査しました。平成24年度の調査結果から、知識・技能を活用する力について学習状況の現状と課題から、学力向上のために日常的に指導できるポイントについて考えてみたいと思います。

小学校国語

記述することに慣れさせることがポイント！

【小学校5年生B問題より】

	正答率60%を下回った問題	正答率%
問1	発電量が伸びた原因を選択	49.4
問3	条件に従って考えを書く	55.6

【調査問題：小学校5年生B問題一問1、問3】

出題の趣旨

事象や意見などを関連づけて書けるかどうかを見る問題

解説

本文の前段部分で発電量が伸びた原因について触れているが、見出しやグラフ内の吹き出しに着目してしまい誤答を書いている。また、自分の考えを書く問いでは、選んだ力の長所を自分の言葉で書いていなかったり、誤字脱字があつたりで4観点すべてを満たす正答率が低い結果となっている。

課題

- 目的に応じて必要な情報を取り出すこと
- 自分の考えの根拠となる事実を見つけ、それを活用して自分の考えを論述すること

例えばこんな指導

記述することに慣れさせるため、非連続型テキストの活用をドリル的に行う。

図・地図・グラフ、新聞記事・パンフレットなどをテキストにして、家庭学習などの課題として日常的に記述させることで、書くことに慣れさせる。

<テキストを使用した活動>

- ◇文章や図、表から情報を読み解いていく。
- ◇読み取ったことから自分の意見や考えを記述する。

小学校算数

考え方表現し、伝え合う学習活動の充実がポイント！

【小学校5年生B問題より】

	正答率60%を下回った問題	正答率%
2-(1)	与えられた条件の床面積を求める	56.6
2-(2)	ジュースの量は紙コップの何杯分か求める	55.0

【調査問題：小学校5年生B問題 2-(1), (2)】

出題の趣旨

示された情報から、判断して解決できるかどうかを見る問題

解説

大小2つのテントの大きさを示す数値から、条件に合った床面積を求めるために数値を取り出して求める問題を出題した。面積を求めるためには、縦・横の数値が必要だが、高さもかけて体積を求めていたり誤答が多くなった。また、全体の量から紙コップ何杯分かを求める問題を出題した。この問題では、単位の変換と小数のわり算が必要な知識・技能となるが、定着が不十分で低い正答率となっている。授業の中では、必要な情報だけが提示されることが多いが、この問題のように、情報過多の場面から課題を解決するには、確実な理解が必要となってくる。習得した知識・技能を活用していく力を育成するために、提示した指導例を今後の指導改善の参考にしていただきたい。

課題

- 必要な情報を読み取る力や、その情報を活用する力を持つこと
- 情報を整理し、筋道を立てて考えること

例えばこんな指導

算数的活動で「言葉や数、式、図などを用いて考え、説明する活動」を充実させる。

どういう演算で答えが求められるかという場面で、その演算になる理由を説明したり、話し合ったりすることを意図的に仕組んだ少人数(4人くらい)のグループで話し合う。伝え合うことで、他者の考え方を知ることができるようとする。

<伝え合う学習活動>

- ◇互いの考え方と比べながら話す・聞く
- ◇質問や付けたしを入れて話す
- ◇話し合ったことを自分のノートに加筆

中学校国語

情報活用力を身に付けることがポイント！

【中学校3年生B問題より】

	正答率60%を下回った問題	正答率%
問1	考えを裏付ける記述を記事から選択	53.2
問3	条件にしたがって感想を書く	46.7

【調査問題：中学校3年生B問題一問1、問3】

出題の趣旨

記事を引用するなど、説得力のある文章が書けるかどうかを見る問題

解説

筆者の考えを裏付ける記述を記事から読み取ることができるか問う設問では、情報を読む際に、述べられている内容と根拠とを関連づけて読むことに課題がある。また、無解答も多く見られたことから本文の内容理解にも課題があることが推測される。次に、新聞を読んで興味をもった記事の内容について感想を書く設問では、取り上げた事実や事柄と、自分の意見とを区別する視点が弱いため、根拠を基に自分の考えを筋道立てて書くことに課題があった。提示した指導例を参考にしていただくとともに、日頃の授業やノート指導等で自分の考えを示すことを心がけて指導にあたりたい。

課題

- 根拠となる情報を活用できること
- 筋道を整えて、自分の意見として書くこと

例えばこんな指導

情報を整理・分析することで、「情報を活用する力」を身につけさせる。

国語科に限らず、情報を扱う学習内容で「整理・分析」を意図的に意識して行わせる。資料から得た情報を分析し、自分の考えの根拠となるようにする。発展として、図表などの情報を用いたレポートを書かせてみる。

<情報の分析の仕方>

◇情報を事実と意見に分ける

- ・どのような事実が根拠で、どのような意見が述べられているかが明確になる。

◇同じ出来事で異なる資料を比べる

- ・資料によって考え方の違いがあり、多様なものを見方を知る。

中学校数学

具体 ←→ 抽象の過程を意識しながら指導することがポイント！

【中学校1年生B問題より】

	正答率60%を下回った問題	正答率%
3(1)	等式の性質を使って、方程式を解く方法を求める	59.8
3(2)		49.2

調査問題：中学校1年生B問題一問3—(1), (2)

出題の趣旨

示された情報から、見通し立てを考え、判断して解決できるかどうか見る問題

解説

中学校では、数字と文字を用いて表す場面が小学校よりも多くなるため、式のイメージが捉えられない傾向が見られる。文字を用いて式を表すことの意図を十分に理解していないことに課題がある。さらに、等式の性質を使って方程式を解いていくことを理解していないことからも、事象を式に表したり、解決方法を論理立てて考えたりすることに課題があると考える。提示した指導例を参考にしていただくとともに、小中連携して、相互の指導内容を把握し、相互に関連づけた授業を工夫していくことも大切である。

課題

- 事象を式に表したり、解決方法を論理立てて考えたりすること
- 必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈すること

例えばこんな指導

日常的な事象を数学を通して捉え直し、数学のよさを実感させる。

機械的に計算処理ができる良さを実感させるためにも、数学的な活動を積極的に取り入れていく。できる限り日常的な事象を扱うことにより関心を持たせ、具体的な事象と関連させた授業を工夫していくことが望まれる。

<具体的な事象と関連させた授業の工夫>

- ◇日常的な事象の問題を表やグラフに表すなど、事象を数値化・単純化する活動
- ◇数学を用いて解決して得られた結果の意味を、日常的な事象に照らして考察する場面を設定

平成25年度 佐倉市の教育相談事業

適応指導教室

何らかの理由で学校生活に不適応な状態になっている児童生徒に対して、学習や小集団生活の場を提供します。そこで生活をとおして自己肯定感を高めるとともに、コミュニケーションを通して、他の人と信頼関係を築いていくことで学校生活への復帰をめざしていきます。

どんな活動をしているの？

10：00	朝の会 一人一言（今日の目標）
10：10	各自の計画に沿った学習
11：00	休憩
11：10	各自の計画に沿った学習
12：00	昼食（お弁当）・昼休み
13：00	楽しい活動（創作活動・卓球・レク等）
14：45	清掃 帰りの会 一人一言（今日の反省）
15：00	帰宅

- 開設日 月曜日～金曜日
(祝日、年末年始は除く)
午前9時～午後4時
(児童生徒は午前10時～午後3時)
- 志津教室
 - ・所在地 佐倉市上志津1672番地
(佐倉市役所志津出張所3階)
 - ・電話 489-1002
- 佐倉教室
 - ・所在地 佐倉市栄町8番地7
(佐倉市ヤングプラザ2階)
 - ・電話 484-6611

経験豊富な学校教育相談員の先生方

適応指導教室には、いずれも児童生徒との生活経験が豊富な学校教育相談員7名を配置しております。勉強を教えたり、一緒に体を動かしたりしながら、子どもたちとともに活動し、本来の元気が取り戻せるように、日々働きかけています。

教育電話相談

佐倉市ヤングプラザ2階に設置している「教育電話相談室」には、市民、保護者・児童生徒など様々な方からの相談が寄せられます。昨年度の電話件数は、約250件でした。内容としては「家庭問題に関する事」が一番多く、「不登校に関する事」「しつけ・育児に関する事」の順となっています。相談を受けた場合、内容によっては、より専門的なアドバイスを受けられる相談窓口を紹介するなどしています。今後も身近な相談先の一つとして周知を図っていきます。

今後も適応指導教室は、学校と連携を深めながら、児童生徒一人ひとりを支援していきます。

佐倉市教育電話相談室

学校や身のまわりのことで悩んだらこちらへお電話を

484-6611

相談受付午前9時～午後4時
祝日、年末年始を除く月～金曜日

佐倉市教育委員会

平成25年度学校教育相談員の先生方

【志津教室】

小原利光 糸川隆男

渡邊久子 中嶋雅子

【佐倉教室】

伊藤三男 石井英雄

川上良輔

平成25年度 教育センターの特別支援教育

発達相談

学校（園）生活や家庭生活でうまくいかないことが多い、困り感を持っている幼児・児童・生徒、その保護者の方を対象に相談を行っています。

必要に応じて保護者の方のご承諾のもと、諸検査等を実施して、より詳しく実態把握を行うこともできます。

○相談日 月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）

相談時間 ①10：00 ②11：00 ③13：30

④14：30 4コマ（各1時間）で対応

○所在地 佐倉市将門町7番地（佐倉市立佐倉東小学校内）

○電話 486-2400



「今年度は私たち3名の相談員がお手伝いさせていただきます。宜しくお願ひいたします」
向かって左から小澤千晶・滝口直美・山辺浩子

学校にうかがいます

今年度は、相談のあった子どもが在籍する学校（園）を、相談員が訪問し、学校（園）での様子を参観させていただいた上で、先生方と連携を図らせていただきます。ご要望をお寄せください。

就学相談

保護者の方や学校からの就学に関する相談に応じます。学校・関係諸機関等と連携しながら、その子どもにとって一番望ましい就学の方法や、適切な教育支援の内容を一緒に考えていきます。

○相談日 月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）午前8時30分～午後5時15分

○場所 佐倉市将門町7番地（佐倉市立佐倉東小学校内）

○電話 486-2400

個々の実態に応じた支援、継続的な支援のための「応援計画」活用を推進します

本市では、**発達障害を含めたすべての特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する**という視点に立って、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、特別支援教育を推進しています。

特別な支援が必要な子どもは、その特性から学齢期の学校生活に不適応を起こすことが多いと言われています。

それだけに、学校では周囲の**十分な理解**のもと、**適切な支援に時間をかけて**取り組むことが必要です。学齢期に、多少の失敗はしても**大人や友人と信頼関係を築く**ことが将来にとって非常に重要です。

個々の実態や到達目標を明確に、そしてその支援が6年間、9年間にわたって積み重ねていけるように**「応援計画」**（個別の指導計画）をぜひご活用ください。（データはレドライブ中に保存しております。）

新規 さん応援計画		
児童生徒氏名 生年月日	平成 年 月 日 生 才	学年・学級 担任氏名 年 組 担任:
Aさんの良いところ・得意なこと （よいところ有効活用 ・できるだけたくさん）	Aさんの書き（午後にやさしい・あいさつ元気・漢字をよく覚っている・食べるのが早い等）	
Aさんの課題 となっていること	Aさんの書き（先生のお話が聞けない・新規習得できないことばかりが弱い等）	
保護者の願い		
課題克服 のための手立て	保護者が、いつ、どのような支援をするのか、できることを具体的に記録書きにする。 （個別な理解のときにはできるだけ事前に情報を学習する。身なりや態度を洗うところでも1日の反省を行う等 新規習得は、熟練的なものこそも、そうでないものにも記入）	評価

教育センターをご活用下さい！

教育センターは、5つの事業《学力向上推進事業・特別支援教育推進事業・教育相談事業・道徳教育推進事業・教育センター普及振興事業》を中心に、センター機能の充実を図り、各校の教育活動のニーズに合った支援をしていきます。今後もぜひ、教育センターをご活用ください。

身近で頼りになる教育センターをめざして

学力向上推進事業

- ・佐倉市学習状況調査
- ・好学チャレンジ
- ・全国学力・学習状況調査
- ・教育課題研究

特別支援教育推進事業

- ・就学指導・就学相談
- ・発達相談
- ・特別支援教育関連研修会
- ・特別支援教育支援員配置

教育相談事業

- ・適応指導教室の運営
- ・教育相談基礎講座
- ・保護者からの教育相談
- ・長欠対策・生徒指導との連携

佐倉教育ビジョンの推進

道徳教育推進事業

- ・佐倉学道徳副読本
「佐倉の道徳」作成及び
活用の推進

教育センター普及 振興事業

- ・センターだより、報告書
発行
- ・指導案の収集及び貸出

佐倉市教育センターパートナーシップ校について

教育センターはこれまで、様々な調査研究の報告や提言をしてきました。そこで、平成25年度はこれまでの取組を生かし、市内小中学校（園）と提携関係（パートナーシップ校）を結び、年間をとおしてセンターの機能を生かした連携を図り、該当校の教育課題をともに解決していくこうとするものです。そして、その成果をセンター等報告会により市内各校へ広めていこうと考えております。

平成25年度 佐倉市教育センターパートナーシップ提携校

【学力向上推進事業】 南部中学校・根郷小学校 （連携校：白井西中・印南小）

【特別支援教育推進事業】 根郷中学校・寺崎小学校 （連携校：内郷小・井野小）

【教育相談事業】 佐倉東中学校・佐倉東小学校 （連携校：間野台小）

編集後記

新年度が始まって2ヶ月がたちました。佐倉市教育センターも、林輝彦所長の下、指導主事3名、学校教育相談員10名、補佐員2名の体制でスタートしました。開設11年目を迎え、新たな試みに取組ながら運営にあたります。そして、佐倉の教育の一助となれるよう邁進してまいります。今後もご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。